

コロナに翻弄された2年間だった 遺愛高校3年生の思い

遺愛では高校3年生の『聖書』の課題として、11月下旬までに卒業レポートを提出することになっています。今年度も高校3年生全員が提出しました。

レポートの課題は、古今東西のクリスチャンを1名取りあげて、略歴をまとめ、主な活動を2つ紹介し、その人物についての感想そして最後に遺愛で過ごしてきた感想を書いてもらうものです。

高3一般コース100名のなかで、一番人気は16名のマザー・テレサでした。2位は9名のナイチンゲール、3位は6名の津田梅子、ヘレン・ケラー、マルティン・ルーサー・キング、宗教改革者のマルティン・ルターでした。続いて5名いたのが中村哲氏でした。生徒の皆さんは一生懸命調べて書いていて、書きながら更に学びを深くしているという印象でした。

遺愛女子高校で過ごした3年間のうち2年間は新型にコロナに翻弄され、高2の時は高体連・高文連が中止となり、遺愛祭そして修学旅行まで中止となりました。高3では、多くの行事が実施できたものの、従来とは変更・縮小されたものとなりましたので、かなり不本意な遺愛生活という感想が想像されましたが、全く異なりました。例えば「コロナの影響で、部活動の発表の場がなくなり、学校行事がなくなり、修学旅行中止が一番ショックでした。でも3年間過ごしてみて、入学時は女子校になじめるか不安でしたが、様々なボランティア活動やクリスマス礼拝などキリスト教学校ならではの行事があり、いろいろな友達ができ、嘘でしょというくらい、毎日がとっても楽しく、充実していました。」



レポートの表紙あり、とても嬉しく感じました。

「普段の遺愛生活そのものが楽しかった。コロナ規制の中でどうしたら楽しくなるかを考え、考えたことを実際にやってみることでより絆が深まった。」など、女子校ならではの「のり」で、自分たちで遺愛生活を楽しいものにしていて、遺愛に入学して本当に良かったという感想が多く

2022年1月13日(木)